



ヤブガラシ(藪枯らし)〈ブドウ科・ヤブガラシ属〉

日本全土に分布し、道端の藪や畑、荒地などによく見られるつる性の多年草。葉は長さ4～8㎝、5小葉からなる複葉で互生し、蔓を伸ばし触れるものに絡みつく。7～9月に直径約5mmの花を付ける。花は黄緑色の4枚の花弁を持つが、雄しべと共に開花後半日ほどで直ぐに散り、花盤と呼ばれる花の基部が紅色から橙色に変わり良く目立つ。花盤には蜜が豊富でたくさんの昆虫が訪れる。名は、地下に太い根を張り巡らせ、藪をおおって枯らしてしまうほどの旺盛な繁殖力を持つことから。また、人の手の入らない貧乏くさい所に繁茂するので別名ビンボウカズラともいう…▼濃い緑色の葉を青々と葉を茂らせ生命力あふれるヤブガラシ。かなり手強い雑草だが、山菜の一つと聞いた。葉をかじるとネバナバしてぴりっと辛い。根は漢方に。▼勢いのあるヤブガラシは覚えておくと役に立つだろうが、核の脅威が勢いを増して身近に感じられる今、負の教訓に満ちた「原爆の日」の持つ意味は大きい。77回目の8月6日、未来のために過去を直視しせねば。祈、平和。

～2022年7月湯来町にて～